

令和４年度幼稚園学校評価（出雲市立大津幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	
			達成及び取組状況	評価	評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	○幼児の実態や家庭環境を把握し、園の教育目標や特色を生かした学級経営を行うよう努力している。学期、あるいは年間のテーマを掲げ、目指す幼児像に向けて子どもたちとの合言葉を保育に取り入れ、具現化できるよう努めている。 ○学期毎に「学級の育ち」としてまとめたものを個々の「あゆみ」と共に保護者に配布し、幼児の発達や学級経営、幼稚園教育への理解を図っている。 ○毎月指導計画をたて、「P⇒D⇒C⇒A」のサイクルのもと行っている。	4	4	○今後も各担任は、PDCAサイクルを意識した学級経営に努めると共に、学年間で保育や指導内容等を確認しながら指導計画の立案、実践をする。 ○「幼児期に育てたい10の姿」を基に、職員間で育てたい具体的な姿を明確にし、ふさわしい保育、支援に努める。 ○園長は、今後も園経営方針や重点について職員・保護者に理解と協力が得られるよう工夫する。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	○各担任は、補助にあたる職員と連携を図り、一人一人の姿から発達や特性を捉え、個に応じた援助に努めている。さらに、今年度からは定期的に「子どもを語る会」を設け、継続することで多面的に子供理解を図り、学級経営に生かすようにしている。 ○補助教諭やヘルパー職員の勤務時間の関係上、担任と話し合う時間がもちにく、工夫が必要である。	3	3	○支援が必要な幼児を含めた一人一人の課題やねらいを明確にし、幼児の育ちを支えるように努める。 ○補助教諭・ヘルパー職員と共通理解を図り、適切な支援ができるよう情報共有できる時間を工夫してつくる。 ○多面的に幼児理解をしていけるよう「子供を語る会」を継続していく。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	○園全体で情報を共有し、より望ましい指導にあたるよう努めている。市巡回訪問や年中児発達相談事業等を通して、支援方法や保護者への関わり方について具体的な助言を得ることができた。必要に応じて相談員、保護者との面談を設けることで継続的な支援に繋げていけるようにしている。 ○支援の必要な子どもやその保護者対応について、全職員の意識を高めていくことが大切であると考える。	3	3	○各家庭や一人一人の抱えている課題は違い、対応の難しさがあるが、市の相談員や専門機関との連携を図り、今後も幼児やその保護者にとってよりよい方策を探っていく。 ○全職員が幼児理解を深め、課題や支援の方法について共有できるように話し合いの時間、場の確保に努めていきたい。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	○人権・同和教育を保育の根底に据え、一人一人が安心感と自信をもって自己発揮し、思いやりのある心が育つような保育に努めている。 ○職員は人権・同和教育の研修会や講演会に参加し、差別の現状を理解したり、月に2回の「子どもを語る会」の際、輪番で人権・同和教育に関するエピソードを伝え合う場を設け、自分のこととして考えたりしながら人権意識を高めていけるように努めている。 ○家庭と共に取り組むことができるよう、幼児の具体的な姿を通して啓発していくようにしている。保護者同士が意見交換ができるよう参加型の研修会を実施した。 ○補助教諭やヘルパー職員を含めた全職員で話し合い、共に意識を高めていく機会がもちにくい。	3	3	○園長は、人権・同和教育について課題意識をもって生活するよう職員への啓発に一層努める。職員は、今後も積極的に研修会や講演会、研究会に参加し、人権意識を高めていく努力をする。保育や生活場面で直面した場合は、その都度職員間で話し合い、共に研修の場になるようにしていく。 ○年に一度は人権・同和教育に関する教育講演会を行い、保護者にも人権・同和教育について自分のこととして意識できるように引き続き啓発に努める。また、今年度のように、保護者自身が人権意識を高めたり、子育てへに反映させたりすることができるよう、振り返りの場や機会を設けたり、保育や幼児の実際の姿を通して考えたり気付いたりできるような発信を心がける。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	○行事を行うにあたって、職員間で発達段階に応じたねらいについて明確にし、幼児の育ちや生活の連続性、保育の充実に繋がるよう共通理解を図りながら取り組んできた。 ○保護者に行事を行う意図やめあて、取組の過程を通した発達の姿や成長を伝え、園行事への理解を深めてもらうように努めてきた。保護者アンケートの結果ではA評価が87％であり、理解が得られていると考える。	4	4	○幼児が主体的に取り組み、次への意欲や成長につながる行事となるよう今後も活動の過程を重視する。 ○幼児にとっての行事の意義を保護者に分かりやすく伝えていく。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	○保幼小連絡会、年中児発達相談事業の実施等を通して就学への円滑な連携を図っている。3年ぶりに市保幼小交流の日が実施され、小学生と直接交流ができたことは年長児にとってよい体験になった。一中生との交流体験では、親しみをもって自分から関わっていく姿が多く見られた。中学生の感想からは幼児の発達についてきちんと考え捉えようとしていることが伺え、双方にとって有意義な活動であった。 ○一中校区一斉取組による「すこやかチャレンジ」を定期的に実施してきた。生活習慣への意識を高め、定着を促すことが就学に向けての滑らかな接続につながると考え、家庭へ啓発している。 ○文部科学省から「架け橋期」の幼小接続の重要性について提示されている。幼児・児童、職員同士の充実した交流・連携に向けた具体的な計画、取組が必要であると考える。	2	2	○幼児・児童・生徒のよりよい発達に繋がるような計画的、柔軟な交流を今後も行っていきたいと考えている。 ○園内研究会に小学校教員を招き、「幼児期に育てたい10の姿」を基に意見交換をすることで、幼小で作成しているスタートカリキュラム、アプローチカリキュラムの見直しを図り、保育の充実や家庭への啓発につなげたい。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	○幼児のよりよい成長を願い、保護者と共通理解を図ったうえで成長を促していけるよう年2回の個人懇談実施、連絡ノートの活用、送迎時の対応、タイムリーな便りの発行等、細やかな連携を大事にしている。しかし、連携の難しさを感じる家庭もあり、課題を感じている。 ○地域との連携を積極的に図り、保育に生かせる環境・人材活用に努めた。幼稚園教育について理解をしてもらえるよう、近隣や地域の方への発信についても工夫をした。	3	3	○地域の協力が得やすいという最大の特徴を取り入れた教育活動を展開するよう努めると共に、園・学級便り、ホームページ等による家庭や地域への発信の仕方を工夫する。 ○職員は、教育課程をもとに一人一人の育ちや課題について把握し、家庭と共通理解をしながら適切な支援をしていけるよう引き続き具体的に分かりやすい説明に努める。子どもについての細やかな情報提供をするよう心がけ、子育てへの不安を取り除いたり、自信をもてるよう支えたりする。 ○連携の難しさがある家庭については、丁寧な関わりを継続し、担任だけでなく全職員が共通理解をしたうえで対応にあたる。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	○各自が必要な研修会に積極的に参加し、自己研鑽を重ねてきた。研修内容を園内で伝達し合い、保育や執務に活かすようにしている。 ○指導者を招き、園内研究会を実施したことで多くの学びを得ることができた。研究主任を中心に、各担任は各学期ごとのまとめを作成し、保育の振り返りや研究主題に向けての課題意識をもつようにしている。	4	4	○職員の資質向上をめざし、今後も各種研修会、研究会に積極的に参加したり、園内研修のやり方を工夫したりしながら学び得たことを共有し、指導力を高める努力をする。 ○計画的に園内研修会を行い、保育を互いに見合うことで本園での「幼児期に育てたい10の姿」を明確にし、幼児の学びに向かう力を育む環境の構成や教師の援助について理解を深めていく。話し合ったことや学んだことが保育実践に生かされるよう努める。状況に応じて外部からの参加者も募り、多面的な意見を知る機会としたり、幼稚園教育についての理解を深めてもらったりする機会になるようにする。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	○園務分掌における各担当者は早めの計画、全職員への周知を図るよう努め、協力・連携をしながら業務の遂行を図っている。 ○園長は、日々の情報交換以外にも毎学期初めに補助教諭、ヘルパー、補助員と各学期ごとのねらいや支援等について話し合いの機会をもち、全職員が共通理解をし、連携して職務にあたるようにしている。 ○日頃から互いに報告・連絡・相談を心がけることで情報の共有をし、園としての組織力が向上するよう努めている。	4	4	○今後もコミュニケーションの促進を図り、職場の活性化や雰囲気づくりに努める。 ○「子供を語る会」や補助職員との話し合いの機会を定期的に設け、園目標、園経営、学級経営、指導計画等について全職員が認識し、各業務にあたることができるようにする。園児を全職員で見守り、育てるという共通認識に立ち、皆が前向きな姿勢で取り組むように働きかけていく。 ○仕事内容ややり方について見直し、スリム化が図れるよう努めたい。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	○計画的に避難訓練・防犯教室・安全教室等を行い、安全管理、危機管理についての意識を高め、適切な対応ができるように努めている。些細なことでも保護者への説明を徹底するよう共通理解を図っている。しかし、保護者の考えは様々であり、過剰に心配をする家庭もある。保護者対応について課題を感じる。 ○感染症対策、衛生面、保健面での危機管理は、マニュアルをもとに職員間で共通理解を図りながら取り組んでいる。	3	3	○情報収集を適時行い、正確・適切に活かせるように努める。個人情報の管理は、今まで通り徹底して行う。 ○幼児の安全管理、保健管理については定期的に情報の確認、共有、訓練をし、職員の意識を一層高める。 ○適宜、安全管理、保健管理等の情報や取り組みについて保護者へ伝えることで、安心感をもてるようにしていく。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	○毎日、日直職員が出退勤時に園舎内の巡視をし、異常の有無について確認をしている。 ○今年度は、園舎内外の環境について見直しを図り、不要な物の処分や備品の点検を行った。また、各部屋や倉庫などがきちんと機能するよう整理した。動線がよくなり、安全・衛生面上も改善した。 ○毎月「安全の日」を設け、分担をして園地・園舎・遊具等の施設設備の点検を行っている。老朽化に伴う修理や修繕箇所が多くあるが、必要な箇所があれば迅速な報告と対処に努めている。しかし、修繕に係る費用が多くなったり、修理自体が困難な場合もあったりし、難しさを感じることも多い。	3	3	○今後も定期点検を継続し、不備があれば迅速に対応する。園舎内外における教育環境について改善していこうとする職員自身の意識を高めていくようにする。 ○修繕に係る予算措置については、必要であれば運営協議会や愛育会とも相談しながら進めていく。

※評価基準　４：十分達成している　３：概ね達成している　２：改善を要する部分がある　１：大いに改善を要する